



	「中間報告」の ケース A1	本報告の ケース A1	備考
静的応力降下量	3 [MPa]	7 [MPa]	本報告では Seno et al. (1980) の値を使用。
地震モーメント	2.2×10^{20} [N・m]	3.1×10^{20} [N・m]	同上。
モーメントマグ ニチュード	7.5	7.6	「中間報告」では、「形状評価」より設定。 本報告では、地震モーメントより算出。
震源断層の面積	3200 [km ²]	2300 [km ²]	地震モーメントと応力降下量より [レスピ (1)式] を用いて算出。
短周期レベル	1.4×10^{20} [N・m/s ²]	8.4×10^{19} [N・m/s ²]	
アスペリティ の個数	3	2	
各アスペリティ の 応力降下量	70 [MPa] (3つのア スペリティで共通)	29 [MPa] (第1) 73 [MPa] (第2)	本報告では観測波形を説明するように設定。
各アスペリティ の面積	128 km ² (第1) 96 km ² (第2) 96 km ² (第3)	96 km ² (第1) 96 km ² (第2)	「中間報告」では菊地・山中 (2001) の解析結 果を参照。本報告では観測波形を説明するよ うに設定。

図 10 「中間報告」と本報告それぞれの断層モデル (A1) の比較